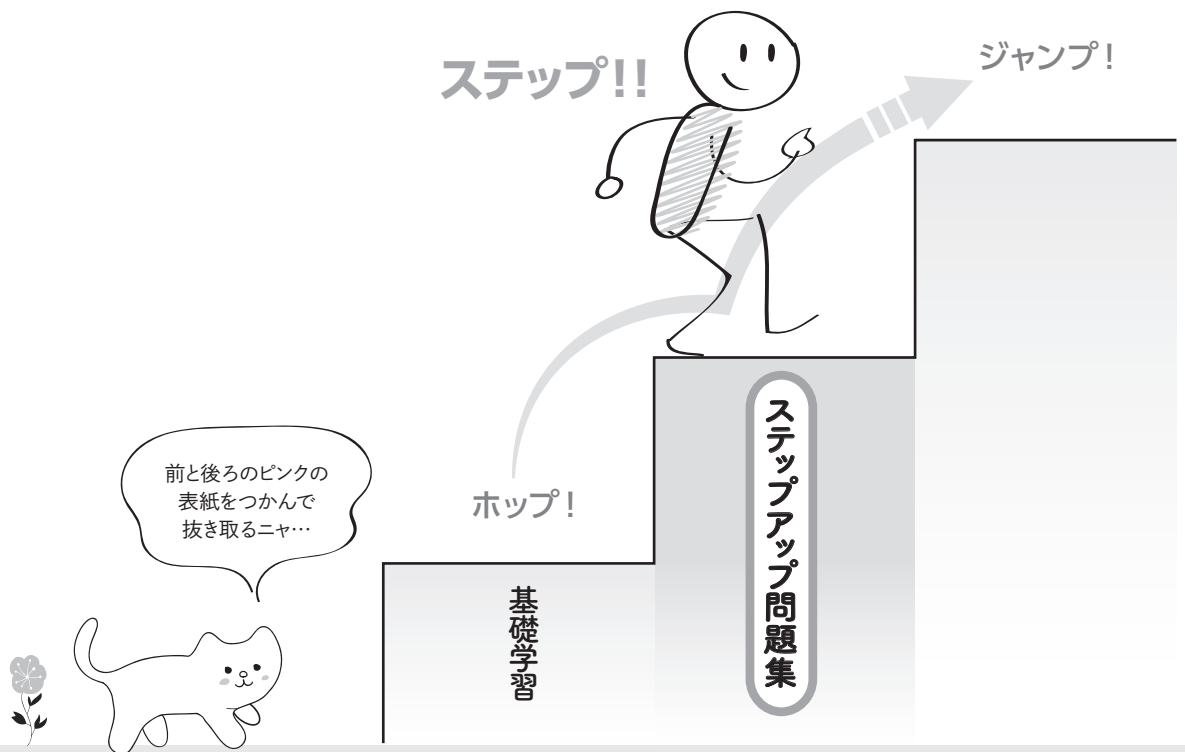


日商簿記3級

ステップアップ問題集



解答用紙

本気になったら
大原

大原出版

CONTENTS

1	簿記の目的	P.2	51	商品有高帳	P.24
2	損益計算書の作成	P.2	52	商品有高帳	P.25
3	貸借対照表の作成	P.2	53	固定資産台帳	P.25
4	損益計算書・貸借対照表の作成	P.3	54	合計残高試算表	P.26
5	仕 訳	P.3	55	伝票(3伝票制)	P.27
6	仕 訳	P.4	56	伝票(3伝票制)	P.27
7	勘定への記入	P.4	57	伝票(3伝票制)	P.27
8	仕訳と勘定への記入	P.4	58	伝票(3伝票制)	P.27
9	合計残高試算表	P.5	59	伝票(3伝票制)	P.28
10	商品売買	P.6	60	伝票(3伝票制)	P.28
11	商品売買	P.6	61	伝票(3伝票制)	P.28
12	合計残高試算表	P.7	62	仕訳日計表	P.29
13	商品売買	P.8	63	証ひょう1	P.30
14	商品売買	P.9	64	証ひょう2	P.30
15	現金および現金過不足	P.9	65	売上原価の算定	P.30
16	現金および現金過不足	P.9	66	売上原価の算定	P.30
17	普通預金	P.10	67	売上原価の算定	P.31
18	当座預金・当座借越	P.10	68	貸倒れ・貸倒引当金	P.31
19	当座預金・当座借越	P.10	69	減価償却	P.31
20	約束手形	P.11	70	有形固定資産の仕訳	P.32
21	約束手形	P.11	71	有形固定資産の訂正仕訳	P.32
22	電子記録債権・債務	P.12	72	費用・収益の決算整理	P.32
23	電子記録債権・債務	P.12	73	収益の決算整理(訂正仕訳)	P.33
24	有形固定資産	P.12	74	現金・現金過不足の処理	P.33
25	その他の債権・債務	P.12	75	現金の処理	P.33
26	その他の債権・債務	P.13	76	現金過不足の仕訳	P.33
27	収益勘定・費用勘定	P.13	77	当座借越の振替え	P.34
28	収益勘定・費用勘定	P.14	78	貯蔵品の処理	P.34
29	株式会社の資本	P.14	79	消費税の処理	P.34
30	消費税	P.14	80	法人税等の処理	P.34
31	訂正仕訳	P.15	81	決算整理後残高試算表の作成	P.35
32	訂正仕訳	P.15	82	精算表1	P.36
33	総まとめ1	P.15	83	精算表2	P.37
34	総まとめ2	P.16	84	精算表3	P.38
35	総まとめ3	P.16	85	精算表4	P.39
36	補助簿の相関関係	P.17	86	精算表5	P.40
37	当座預金出納帳	P.17	87	精算表6	P.41
38	小口現金	P.17	88	帳簿の締切り	P.43
39	小口現金出納帳	P.18	89	決算振替仕訳	P.43
40	小口現金出納帳	P.18	90	商品に関する各勘定の締切り	P.44
41	受取手形記入帳	P.19	91	損益計算書と貸借対照表の作成	P.45
42	支払手形記入帳	P.19	92	損益計算書と貸借対照表の作成	P.46
43	受取手形記入帳	P.20	93	損益計算書と貸借対照表の作成	P.47
44	手形記入帳	P.20	94	損益計算書と貸借対照表の作成	P.48
45	買掛金元帳	P.20			
46	売掛金元帳	P.21			
47	仕入帳	P.22			
48	仕入帳	P.22			
49	商品有高帳	P.22			
50	商品有高帳	P.23			

① 簿記の目的

テキスト▶P.4

解答・解説▶P.124

1. ()とは、企業の()を帳簿に記入する技術のことである。企業はこの帳簿に基づき、一定期間の()を明らかにする()と一定期日の()を明らかにする()を作成する。
2. ()は、()と()を対比させ、当期純利益を表示する。
3. ()は、()と負債および()を記載する。

② 損益計算書の作成

テキスト▶P.4

解答・解説▶P.124

損益計算書			
東京株式会社		自××年4月1日 至××年3月31日	
		(単位:円)	
費用の部	金額	収益の部	金額
給料		受取手数料	
-----		-----	
-----		-----	
-----		-----	
当期純利益		-----	
-----		-----	
-----		-----	

③ 貸借対照表の作成

テキスト▶P.4

解答・解説▶P.124

貸借対照表			
東京株式会社		××年4月1日現在	
		(単位:円)	
資産の部	金額	負債・純資産の部	金額
-----		-----	
-----		-----	
-----		-----	
-----		-----	
-----		-----	
-----		-----	

6 仕 訳

テキスト▶P.7

解答・解説▶P.125

日 付	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
4 / 2				
5				
12				
18				
20				
25				
27				
5 / 7				

HINT

4月12日 借入金の返済によって、借入金という債務が減少する。
これは負債の減少となる。また、支払った利息は費用になる。

5月7日 貸付金を回収することによって、貸付金という債権が減少する。
これは資産の減少となる。また、受け取った利息は収益となる。

なお、両仕訳とも借方もしくは貸方の勘定科目が複数になるが、仕訳の借方、貸方の合計金額は貸借平均の原則によって同額となるので、チェックをすること。

7 勘定への記入

テキスト▶P.10

解答・解説▶P.126

現 金	
給 料	

借 入 金	
受取手数料	

8 仕訳と勘定への記入

テキスト▶P.10

解答・解説▶P.126

日 付	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
6 / 5				
12				
18				
20				
25				
27				

現金	
500,000	
備品	
借入金	
支払利息	

受取手数料	
給料	
水道光熱費	
広告宣伝費	

 HINT

6月12日の転記に注意する。仕訳の貸方側に対する借方側の相手勘定科目が2つとなるため、「諸口」と記入することになる。

9 合計残高試算表

テキスト▶P.13 解答・解説▶P.127

借方		勘定科目	貸方	
残高	合計		合計	残高
		現金		
		備品		
		車両運搬具		
		借入金		
		資本金		
		繰越利益剰余金		
		売上		
		受取手数料		
		仕入		
		給料		
		水道光熱費		
		消耗品費		
		広告宣伝費		
		支払利息		

⑩ 商品売買

テキスト▶P.15 解答・解説▶P.127

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
1 / 5				
14				
29				

仕 入		売 上	

当月総売上高 ￥ _____ 当月返品高 ￥ _____ 当月純売上高 ￥ _____

⑪ 商品売買

テキスト▶P.16 解答・解説▶P.128

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
2 / 4				
8				
15				
18				
20				

⑫ 合計残高試算表

テキスト▶P.16 解答・解説▶P.129

解答用紙

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
2/1				
5				
7				
9				
13				
16				
18				
20				
21				
23				
25				
26				
28				

合計残高試算表				
××年2月28日				
(単位:円)				
借方		勘定科目	貸方	
残高	合計		合計	残高
		現金		
		売掛金		
		繰越商品		
		買掛金		
		資本金		
		繰越利益剰余金		
		売上		
		仕入		
		給料		
		水道光熱費		
		発送費		
		雑費		

**HINT**

本問では、総勘定元帳への転記が省略されているため、合計残高試算表の合計欄の金額算定方法が問題となる。各勘定の合計金額は仕訳の同一科目の金額を合算することによって求められる。

13 商品売買

テキスト▶P.20

解答・解説▶P.131

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
5 / 7				
12				
23				
26				
29				
31				

前払金

受取商品券

仕入

売上

14 商品売買

テキスト▶P.20 解答・解説▶P.131

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4				
5				

HINT

前章までの問題は一連の流れに沿って出題したが、本問では1つ1つを独立した取引として出題している。また、3についてはすでに行われている仕訳をイメージして、仕訳を考えること。

15 現金および現金過不足

テキスト▶P.22 解答・解説▶P.132

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
7/20				
8/3				
10				

16 現金および現金過不足

テキスト▶P.23 解答・解説▶P.132

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2	(1)			
	(2)			
3	(1)			
	(2)			

 HINT

2. (2) は「電話帳広告代」という表現から勘定科目はイメージできる。一方、3. (2) であるが、「古紙の売却収入」のような少額の収入は雑益勘定（収益）で処理する。

17 普通預金

テキスト▶P.26

解答・解説▶P.132

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4				
5				

18 当座預金・当座借越

テキスト▶P.26

解答・解説▶P.132

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
10/ 1				
17				
24				

19 当座預金・当座借越

テキスト▶P.26

解答・解説▶P.133

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
11/ 1				
3				
8				
14				
27				

当 座 預 金

 HINT

仕訳のつど、当座預金勘定への転記を行う。
 11月3日、8日、14日の取引は、商品売買に関する復習である。迷った場合は戻って確認する。
 11月27日の取引では、他人振出しの小切手を受け取り、当座預金に預け入れていないため、これは通貨代用証券となることに留意する。

②0 約束手形

テキスト▶P.28 解答・解説▶P.134

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				

②1 約束手形

テキスト▶P.28 解答・解説▶P.134

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				

 HINT

手形についてむずかしい点はないが、2.の小切手は他人振出し小切手であることを押さえる。他人振り出し小切手は通貨代用証券のため、現金勘定を用いる。

②② 電子記録債権・債務

テキスト▶P.30 解答・解説▶P.135

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				

②③ 電子記録債権・債務

テキスト▶P.30 解答・解説▶P.135

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				

②④ 有形固定資産

テキスト▶P.32 解答・解説▶P.135

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				

②⑤ その他の債権・債務

テキスト▶P.36 解答・解説▶P.135

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4	(1)			
	(2)			

26 その他の債権・債務

テキスト▶P.36

解答・解説▶P.136

		借方科目	金額	貸方科目	金額
1	(1)				
	(2)				
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					

27 収益勘定・費用勘定

テキスト▶P.38

解答・解説▶P.137

		借方科目	金額	貸方科目	金額
1					
2					
3					
4					
5					

28 収益勘定・費用勘定

テキスト▶P.38 解答・解説▶P.137

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				

29 株式会社の資本

テキスト▶P.41 解答・解説▶P.137

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3	(1)			
	(2)			
	(3)			

30 消費税

テキスト▶P.43 解答・解説▶P.138

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				

31 訂正仕訳

テキスト▶P.45 解答・解説▶P.138

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4				
5				

32 訂正仕訳

テキスト▶P.46 解答・解説▶P.139

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				

 HINT

- 仕訳の正否を考え、訂正仕訳を行わせる難易度の高い問題である。ここでは、問題文で与えられている仕訳の正否を考える上でのヒントを示す。
2. 約束手形の振り出しは支払手形勘定で仕訳が行われる。
 3. 販売した商品が返品されてきた場合は、商品の掛売上時とは貸借逆の仕訳を行う。

33 総まとめ1

テキスト▶P.46 解答・解説▶P.139

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4	(1)			
	(2)			
5				

34 総まとめ2

テキスト▶P.47

解答・解説▶P.140

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4				
5				
6				



HINT

4. 利息の計算（日割り）は、次の算式により計算する。

$$\text{借入金額} \times \text{年利率} \times \frac{\text{借入日数}}{365\text{日}} = \text{利息}$$

35 総まとめ3

テキスト▶P.47

解答・解説▶P.140

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4				
5				

36 補助簿の相関関係

テキスト▶P.49 解答・解説▶P.141

	現金出納帳	当座預金出納帳	仕入帳	売上帳	受取手形記入帳	支払手形記入帳	買掛金元帳	売掛金元帳	商品有高帳	固定資産台帳
1										
2										
3										
4										
5										

37 当座預金出納帳

テキスト▶P.52 解答・解説▶P.141

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
2/4				
8				

38 小口現金

テキスト▶P.55 解答・解説▶P.142

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
5/1				
7	-----		-----	
	-----		-----	

39 小口現金出納帳

テキスト▶P.55 解答・解説▶P.142

小口現金出納帳								(単位:円)
受入	日付		摘要	支払	内 訳			
					旅費交通費	通信費	消耗品費	雑費
11,000	6	6	前週繰越					
39,000		〃	本日補給					
		〃	帳簿・伝票代	11,000				
		7	お茶・コーヒー代	6,000				
		8	郵便切手代	12,000				
		〃	タクシー代	4,500				
		9	コピー用紙代	5,000				
		10	ハガキ代	3,000				
		〃	合計					
		〃	次週繰越					
	6	13	前週繰越					
		〃	本日補給					

40 小口現金出納帳

テキスト▶P.55 解答・解説▶P.142

1.

小口現金出納帳								(単位:円)
受入	日付		摘要	支払	内 訳			
					旅費交通費	通信費	消耗品費	雑費
50,000	10	11	前週繰越					
			合計					
			本日補給					
			次週繰越					
	10	18	前週繰越					

2.

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
10/15				

④1 受取手形記入帳

テキスト▶P.58 解答・解説▶P.143

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
3/1				
12				

受取手形記入帳

日付	手形種類	手形番号	摘要	支払人	振出人 または 裏書人	振出日	満期日	支払場所	手形金額	てん末	
										日付	摘要

④2 支払手形記入帳

テキスト▶P.58 解答・解説▶P.143

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
4/3				
5/15				

支払手形記入帳

日付	手形種類	手形番号	摘要	受取人	振出人	振出日	満期日	支払場所	手形金額	てん末	
										日付	摘要

43 受取手形記入帳

テキスト▶P.59

解答・解説▶P.144

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
7/2	受取手形	80,000	()	80,000
7/20	受取手形	100,000	()	100,000
8/2	当座預金	80,000	()	80,000

HINT

1. 受取手形記入帳の左側から手形金額欄までは、受取手形の増加に関する内容である。また、摘要欄の勘定科目は仕訳における受取手形の相手勘定である。
2. 受取手形記入帳の右側のてん末欄は、受取手形の減少に関する内容である。摘要欄の内容を確認し、そこから仕訳がイメージできるようにする。

44 手形記入帳

テキスト▶P.59

解答・解説▶P.144

1 帳簿の名称

2 仕訳

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
3/7				
4/10				
5/7				

HINT

1. 帳簿の名称は次の2つの要素を押さえることでわかる。
 - (1) 手形種類、手形番号という言葉から手形記入帳であることを押さえる。
 - (2) 摘要欄の勘定科目、「仕入」、「買掛金」という内容から受取手形か支払手形のいずれであるかを判断する。
2. 仕訳
この支払手形記入帳の構造は前問の受取手形記入帳と異なるところはないので、同様に考えればよい。

45 買掛金元帳

テキスト▶P.62

解答・解説▶P.144

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
7/7				
12				
13				
27				

47 仕入帳

テキスト▶P.64 解答・解説▶P.145

仕 入 帳		
×年	摘 要	金 額
3	5 青森商店、約手# 2、掛け	
	A商品 100個 @¥5,100	¥510,000
	引取運賃、現金払い	¥ 2,000
	15 秋田商店、小切手# 24、掛け	
	B商品 300個 @¥4,000	()
	25 秋田商店、返品	
	B商品 10個 @¥4,000	()
	31 当月総仕入高	()
	〃 当月返品高	()
	〃 当月純仕入高	()

48 仕入帳

テキスト▶P.64 解答・解説▶P.145

帳簿	現金出納帳	当座預金 出納帳	商品有高帳	受取手形 記入帳	支払手形 記入帳	売掛金元帳 (得意先元帳)	買掛金元帳 (仕入先元帳)
日付							
4/ 7							
12							
20							

49 商品有高帳

(1) 先入先出法

テキスト▶P.67 解答・解説▶P.146

商 品 有 高 帳										
イ 商 品										
日 付	摘 要	受 入			払 出			残 高		
		数量 個	単価 円	金 額 円	数量 個	単価 円	金 額 円	数量 個	単価 円	金 額 円
6	1 前月繰越	20	400	8,000				20	400	8,000
	6 仕 入									
	9 売 上									
	18 仕 入									
	30 売 上									
	〃 合 計									
	〃 次月繰越									
7	1 前月繰越									

(2) 移動平均法

商品有高帳											
イ 商品											
日付	摘要	受入			払出			残高			
		数量 個	単価 円	金額 円	数量 個	単価 円	金額 円	数量 個	単価 円	金額 円	
6	1	前月繰越	20	400	8,000				20	400	8,000
	6	仕入									
	9	売上									
	18	仕入									
	30	売上									
	〃	合計									
	〃	次月繰越									
7	1	前月繰越									

50 商品有高帳

(イ) 先入先出法

テキスト▶P.67 解答・解説▶P.147

商品有高帳											
ボールペン											
日付	摘要	受入			払出			残高			
		数量 ダース	単価 円	金額 円	数量 ダース	単価 円	金額 円	数量 ダース	単価 円	金額 円	
11	1	前月繰越	40	640	25,600				40	640	25,600

(ロ) 移動平均法

商品有高帳											
ボールペン											
日付	摘要	受入			払出			残高			
		数量 ダース	単価 円	金額 円	数量 ダース	単価 円	金額 円	数量 ダース	単価 円	金額 円	
11	1	前月繰越	40	640	25,600				40	640	25,600

51 商品有高帳

テキスト▶P.67 解答・解説▶P.147

商品有高帳											
移動平均法 Yシャツ											
日付	摘要	受入			払出			残高			
		数量 枚	単価 円	金額 円	数量 枚	単価 円	金額 円	数量 枚	単価 円	金額 円	
5	1	前月繰越	20	4,000	80,000				20	4,000	80,000

売上原価の計算

月初商品棚卸高	¥()
当月商品仕入高(+)	()
合計	¥()
月末商品棚卸高(-)	()
売上原価	<u>¥()</u>

売上総利益の計算

売上高	¥()
売上原価(-)	()
売上総利益	<u>¥()</u>

HINT

売上原価および売上総利益の計算手順は次のとおりである。

- (1) 月初商品棚卸高は前月から繰り越してきた商品の原価である。よって、受入欄の前月繰越の金額となる。
- (2) 当月商品仕入高は当月に仕入れた商品の原価である。よって、商品有高帳の受入欄の当月仕入金額の合計となる。
- (3) 月末商品棚卸高は当月末の商品残高である。よって、商品有高帳の月末残高欄の金額となる。なお、売上原価は解答欄の金額の加減算で求められるが、商品有高帳の払出欄の金額の合計額に一致する。
- (4) 売上高は売上帳の合計額であり、売上原価を差し引いて売上総利益が算定される。

52 商品有高帳

(1) 先入先出法

テキスト▶P.68

解答・解説▶P.148

商 品 有 高 帳											
靴											
日 付	摘 要	受 入			払 出			残 高			
		数量 足	単価 円	金 額 円	数量 足	単価 円	金 額 円	数量 足	単価 円	金 額 円	
6	1	前月繰越	20	7,000	140,000				20	7,000	140,000

(2) 売上総利益の計算

売 上 高 ¥ ()
 売 上 原 価 (-) ()
 売 上 総 利 益 ¥ ()



HINT

- (1) 売上高は6月14日と27日の売上合計額となる。
- (2) 売上原価は払出欄の金額の合計額となる。

53 固定資産台帳

テキスト▶P.70

解答・解説▶P.149

	現金 出納帳	当座 預金 出納帳	仕 入 帳	売 上 帳	受 取 手 形 記 入 帳	支 払 手 形 記 入 帳	買 掛 金 元 帳	売 掛 金 元 帳	商 品 有 高 帳	固 定 資 産 台 帳
9月1日										
19日										
25日										

55 伝票 (3伝票制)

テキスト▶P.73 解答・解説▶P.152

() 伝票

5/7	科 目	金 額	

() 伝票

5/12	科 目	金 額	

() 伝票

5/19	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額

() 伝票

5/23	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額

56 伝票 (3伝票制)

テキスト▶P.73 解答・解説▶P.152

日 付	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
4 / 2				
10				

57 伝票 (3伝票制)

テキスト▶P.74 解答・解説▶P.152

消 耗 品 費	前 受 金

58 伝票 (3伝票制)

テキスト▶P.74 解答・解説▶P.152

振 替 伝 票 NO.309

×年6月5日

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額

振 替 伝 票 NO.332

×年7月25日

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額



HINT

各取引と入金伝票の内容を仕訳し、その後、振替伝票の内容を考えるようにする。

59 伝票（3伝票制）

取引〔Ⅰ〕

テキスト▶P.74 解答・解説▶P.153

借方科目	金額	貸方科目	金額

取引〔Ⅱ〕

借方科目	金額	貸方科目	金額



HINT

出金伝票と振替伝票の内容を仕訳し、これらの仕訳を合算する方法により解答する。

60 伝票（3伝票制）

テキスト▶P.75 解答・解説▶P.153

(A)	入金伝票	振替伝票			
	売上 金額 ()	借方科目	金額	貸方科目	金額
(B)	入金伝票	振替伝票			
	売掛金 金額 ()	借方科目	金額	貸方科目	金額



HINT

- まず、取引の内容を仕訳してみる。
- 次に入金伝票の金額が埋まっていないが、取引の文面から入金額が判明するため、まず、この金額を記入し、仕訳を行ってみる。
- 最後に取引の仕訳と入金伝票の内容から仕訳を行ったものを比較し、振替伝票の内容を決定する。

61 伝票（3伝票制）

テキスト▶P.75 解答・解説▶P.154

(1)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">入金伝票</td> </tr> <tr> <td>(a)</td> <td>100,000</td> </tr> </table>	入金伝票		(a)	100,000	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">出金伝票</td> </tr> <tr> <td>(b)</td> <td>1,200</td> </tr> </table>	出金伝票		(b)	1,200				
入金伝票														
(a)	100,000													
出金伝票														
(b)	1,200													
(2)	<table border="1"> <tr> <td colspan="4">振替伝票</td> </tr> <tr> <td>借方科目</td> <td>金額</td> <td>貸方科目</td> <td>金額</td> </tr> <tr> <td>(c)</td> <td>70,000</td> <td>当座預金</td> <td>70,000</td> </tr> </table>		振替伝票				借方科目	金額	貸方科目	金額	(c)	70,000	当座預金	70,000
振替伝票														
借方科目	金額	貸方科目	金額											
(c)	70,000	当座預金	70,000											

出金伝票		
(d)	1,400

HINT

各取引について仕訳を行い、振替伝票の内容と比較して各伝票の勘定科目を推定する。

62 仕訳日計表

テキスト▶P.78 解答・解説▶P.155

仕 訳 日 計 表				
×年7月1日				91
借 方	元丁	勘 定 科 目	元丁	貸 方
-----	-----	現 金	-----	-----
-----	-----	受 取 手 形	-----	-----
-----	-----	売 掛 金	-----	-----
-----	-----	貸 付 金	-----	-----
-----	-----	支 払 手 形	-----	-----
-----	-----	買 掛 金	-----	-----
-----	-----	売 上	-----	-----
-----	-----	仕 入	-----	-----
-----	-----	支払手数料	-----	-----
-----	-----	-----	-----	-----

総 勘 定 元 帳							買 掛 金 元 帳						
現 金				1			大 宮 商 店				1		
日付	摘要	仕丁	借方	貸方	借貸	残高	日付	摘要	仕丁	借方	貸方	借貸	残高
7	1	前月繰越	90,000		借	90,000	7	1	前月繰越		120,000	貸	120,000
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

63 証ひょう1

テキスト▶P.80 解答・解説▶P.155

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				

64 証ひょう2

テキスト▶P.81 解答・解説▶P.156

	借方科目	金額	貸方科目	金額
10.15				
10.18				
10.25				
10.29				
10.31				

65 売上原価の算定

決算整理仕訳

テキスト▶P.85 解答・解説▶P.156

借方科目	金額	貸方科目	金額

66 売上原価の算定

決算整理仕訳

テキスト▶P.85 解答・解説▶P.156

借方科目	金額	貸方科目	金額

67 売上原価の算定

テキスト▶P.85 解答・解説▶P.157

繰越商品			
4/1	前期繰越	()	3/31 () ()
3/31	() ()	〃	次期繰越 23,000
	()		()

仕入			
	総仕入高	()	仕入戻し高 ()
3/31	() ()	3/31	() ()
	()	〃	損益 232,000
	()		()

HINT

仕入先から購入した商品の総額は「総仕入高」といい、これから仕入戻し高などを控除したものを「純仕入高」という。なお、本問の「損益 232,000」が売上原価となる。損益という勘定については第5章-12で説明する。

68 貸倒れ・貸倒引当金

テキスト▶P.88 解答・解説▶P.157

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4				

69 減価償却

決算整理仕訳

テキスト▶P.92 解答・解説▶P.157

借方科目	金額	貸方科目	金額

70 有形固定資産の仕訳

テキスト▶P.93

解答・解説▶P.158

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4				

HINT

1. 月賦で支払う部分は未払金と考えて勘定科目を選択する。
3. 陳列棚は帳簿上の勘定科目では備品となる。購入日が×1年4月1日で売却日が×3年4月1日のため、2年間使用している。この部分の減価償却累計額を各自で計算し、売却損益を算定する。
4. 月次決算による減価償却費の計上のため、まず、1年分の減価償却費の計算を行い、月割して1ヵ月あたりの減価償却費を計算する。

71 有形固定資産の訂正仕訳

テキスト▶P.93

解答・解説▶P.158

借方科目	金額	貸方科目	金額

HINT

本問の解答を行う場合は、まず、正しい仕訳をメモして、問題に掲載されている仕訳と比較しながら訂正仕訳を行う方法が確実である。いきなり、訂正仕訳を考えるとミスが生じる。

72 費用・収益の決算整理

決算整理仕訳

テキスト▶P.95

解答・解説▶P.159

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4				

各収益項目・費用項目の損益計算書への記載金額

受取手数料	¥	支払家賃	¥
受取利息	¥	保険料	¥

73 収益の決算整理（訂正仕訳）

テキスト▶P.95 解答・解説▶P.159

借方科目	金額	貸方科目	金額



HINT

本問の解答方法の注意点は、誤った仕訳と正しい仕訳をメモし、次にこれらと比較しながら、訂正仕訳を考えるとよい。

74 現金・現金過不足の処理

ケース1 決算整理仕訳

テキスト▶P.97 解答・解説▶P.160

借方科目	金額	貸方科目	金額

ケース2 決算整理仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額

75 現金の処理

決算整理仕訳

テキスト▶P.97 解答・解説▶P.160

借方科目	金額	貸方科目	金額

76 現金過不足の仕訳

テキスト▶P.98 解答・解説▶P.160

借方科目	金額	貸方科目	金額

 HINT

この仕訳が苦手な方は多いと思うが、下記の手順で解答するとよい。

1. 修正仕訳を行う際に、現金過不足勘定が借方側にくるか貸方側にくるかを確定する。なお、迷った場合には、現金過不足が生じたときの仕訳をイメージして考えるとよい。
2. 現金の不足額¥58,000と原因判明分の通信費（郵便切手の購入代金）¥45,000、租税公課（収入印紙の購入代金）¥20,000、受取手数料¥12,000の差額¥5,000は原因不明のため雑損勘定で処理する。

77 当座借越の振替え

テキスト▶P.99

解答・解説▶P.160

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				

78 貯蔵品の処理

テキスト▶P.101

解答・解説▶P.160

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				

79 消費税の処理

テキスト▶P.102

解答・解説▶P.161

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				

80 法人税等の処理

テキスト▶P.104

解答・解説▶P.161

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				

81 決算整理後残高試算表の作成

テキスト▶P.107

解答・解説▶P.161

残 高 試 算 表		
××年3月31日 (単位：円)		
借 方	勘 定 科 目	貸 方
	現 金	
	売 掛 金	
	繰 越 商 品	
	買 掛 金	
	資 本 金	
	繰越利益剰余金	
	売 上	
	仕 入	
	給 料	

82 精算表 1

精 算 表								
××年3月31日								
(単位:円)								
勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	19,000							
受取手形	120,000							
売掛金	50,000							
繰越商品	60,000							
備品	36,000							
買掛金		80,000						
借入金		100,000						
未払金		13,000						
貸倒引当金		2,000						
減価償却累計額		9,000						
資本金		40,000						
繰越利益剰余金		10,000						
売上		400,000						
固定資産売却益		10,000						
仕入	320,000							
給料	42,000							
支払家賃	12,000							
支払利息	5,000							
	664,000	664,000						
貸倒引当金繰入								
減価償却費								
当期純()								

83 精算表2

精 算 表								
××年3月31日								
(単位:円)								
勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	277,800							
売掛金	32,400							
繰越商品	25,000							
仮払消費税	59,500							
貸付金	100,000							
備品	50,000							
買掛金		23,200						
仮受消費税		83,500						
減価償却累計額		18,000						
資本金		350,000						
繰越利益剰余金		32,000						
売上		835,000						
受取手数料		67,000						
仕入	595,000							
給料	188,000							
保険料	26,000							
支払家賃	55,000							
	1,408,700	1,408,700						
減価償却費								
前払保険料								
未払家賃								
前受手数料								
受取利息								
未収利息								
未払消費税								
当期純()								

84 精算表3

精 算 表								
××年3月31日								
(単位:円)								
勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	134,000							
当座預金		10,000						
売掛金	154,000							
繰越商品	72,000							
前払保険料	7,200							
備品	108,000							
買掛金		100,000						
貸倒引当金		1,800						
減価償却累計額		32,400						
資本金		250,000						
繰越利益剰余金		50,000						
売上		520,000						
受取地代		18,000						
仕入	392,000							
給料	115,000							
	982,200	982,200						
貸倒引当金繰入								
減価償却費								
前受地代								
保険料								
当座借越								
当期純()								

85 精算表4

精 算 表								
×2年3月31日								
(単位:円)								
勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	75,600							
現金過不足		400						
受取手形	130,000							
売掛金	80,000							
繰越商品	65,000							
備品	80,000							
土地	177,000							
支払手形		90,000						
買掛金		73,000						
借入金		60,000						
貸倒引当金		2,100						
減価償却累計額		28,800						
資本金		250,000						
繰越利益剰余金		50,000						
売上		530,100						
仕入	400,000							
給料	60,000							
支払家賃	12,000							
支払保険料	3,600							
支払利息	1,200							
	1,084,400	1,084,400						
雑()								
貸倒引当金繰入								
減価償却費								
()家賃								
()保険料								
()利息								
当期純()								

 HINT

- ⑥ 期中に1年分(12ヵ月)を支払い、このうち、9ヵ月が経過している。よって、9ヵ月が当期の費用で、残り3ヵ月が前払の保険料となる。
- ⑦ ×1年9月1日に借入れ、利息は×2年2月末日に支払っている。よって、×2年3月1日～3月31日の1ヵ月分が未払いとなっている。この分の利息を、支払利息にプラスし、同額の未払利息を計上する。

86 精算表5

精 算 表								
×2年 3月31日								
(単位:円)								
勘 定 科 目	試 算 表		修 正 記 入		損 益 計 算 書		貸 借 対 照 表	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
現 金	7,100							
当 座 預 金	74,900							
受 取 手 形	23,000							
売 掛 金	34,000							
繰 越 商 品	17,000							
建 物	80,000							
備 品	18,000							
支 払 手 形		15,700						
買 掛 金		31,000						
借 入 金		40,000						
貸 倒 引 当 金		800						
建物減価償却累計額		36,000						
備品減価償却累計額		7,200						
資 本 金		100,000						
繰越利益剰余金		2,100						
売 上		141,700						
仕 入	77,000							
給 料	24,900							
支 払 家 賃	12,100							
支 払 保 険 料	1,100							
租 税 公 課	2,200							
支 払 利 息	2,300							
雑 損	900							
	374,500	374,500						
売 上 原 価								
貸倒引当金繰入								
()								
減 価 償 却 費								
() 家 賃								
() 利 息								
当期純()								

 HINT

- ③ 本問では、売上原価を「売上原価」の行で計算するとの指示があるため、繰越商品勘定、仕入勘定から精算表の売上原価の行に金額を移記して、売上原価を計算する。
- ⑥ 残高試算表に記載されている支払家賃の金額は11ヵ月分であるため、この金額を「11」で割って、1ヵ月分を算定し、これを未払家賃とする。
- ⑦ 借入金利を返済時に支払うことを約束しているため、未払利息が生ずることとなる。本問の場合、×2年2月1日に借り入れているため、2月1日～3月31日の2ヵ月分が未払いとなる。

87 精算表6

テキスト▶P.111 解答・解説▶P.170

精 算 表								
××年3月31日								
(単位:円)								
勘定科目	試 算 表		修 正 記 入		損 益 計 算 書		貸 借 対 照 表	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
現 金	()			600			147,800	
売 掛 金	55,000						()	
繰 越 商 品	()		20,000	14,000			()	
備 品	150,000						150,000	
買 掛 金		35,000						()
借 入 金		100,000						100,000
貸倒引当金		400		()				1,000
減価償却累計額		45,000		()				()
資 本 金		()						100,000
繰越利益剰余金		()						()
売 上		400,000				()		
受取手数料		()	()			17,000		
仕 入	()			()				
給 料	()				54,000			
支 払 家 賃	44,000		()		()			
支 払 利 息	()				8,000			
	()	()						
売上原価			()	()	240,000			
			()					
貸倒引当金繰入			()		()			
減 価 償 却 費			22,500		()			
雑 損			()		()			
() 手数料				()				2,000
() 家 賃				4,000				()
()					()			()
			309,700	309,700	()	()	()	()

HINT

こうした問題を解くコツは下記のとおりである。

1. 本問は一種のパズルである。よって、最初から解こうとせず、わかるところから金額を埋め、最後に残った箇所の金額を考えるといった手順で解答するとよい。
2. 「修正記入欄」の攻略法
 決算整理仕訳をイメージしながら解答するとよい。例えば、現金についてであるが、「修正記入欄」の現金勘定の記入から、現金の実際有高が帳簿残高に満たない(=現金不足)ケースであることがわかる。こうした場合、どのような決算整理仕訳を行うかをイメージして、解答を考えるとよい。
3. 精算表の金額記入法 [1]
 精算表に金額を記入する際、通常のように左側「試算表欄」からスタートする場合は通常の精算表を作成する場合と何ら変わりはないが、右側「貸借対照表欄」から左側に逆進する場合は通常のプラス・マイナスとは逆さまとなる。

<金額算定の例>

1 現金勘定を前提とした通常の記入

精 算 表								
××年3月31日								
(単位:円)								
勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	100,000			600			99,400	
スタート		→ +		- →		貸借対照表金額		

逆進する場合はプラス・マイナスを逆さまに!

2 精算表の記入内容から「試算表欄」現金勘定の金額を推定する場合

精 算 表								
××年3月31日								
(単位:円)								
勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	()			600			99,400	
試算表金額 ←		- + ←		スタート				

4. 精算表の金額記入法 [2]

精算表を作成して金額が埋まらない箇所は、「試算表欄」、「修正記入欄」、「損益計算書欄」、「貸借対照表欄」の貸借の合計金額が一致すること、損益計算書と貸借対照表の当期純利益金額が一致することを手がかりに推算するようにする。以上の解答上のコツがマスターできれば、通常の精算表作成問題よりやさしい場合も多い。

88 帳簿の締切り

テキスト▶P.114 解答・解説▶P.172

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				

仕 入		給 料	
74,000	3/31 繰越商品 12,000	30,000	
3/31 繰越商品 10,000			
水道光熱費		売 上	
8,200			152,000
雑 益		損 益	
	1,000		
繰越利益剰余金			
	100,000		

89 決算振替仕訳

テキスト▶P.114 解答・解説▶P.172

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				

90 商品に関する各勘定の締切り

テキスト▶P.114 解答・解説▶P.173

繰越商品			
4/1	前期繰越	64,000	3/31 () ()
3/31	()	80,000	〃 次期繰越 ()
		()	()
		<u> </u>	<u> </u>
仕入			
	当期仕入高	640,000	当期仕入戻し 24,000
3/31	繰越商品 ()	3/31 () ()	〃 () ()
		()	()
		<u> </u>	<u> </u>
売上			
	当期売上戻り	32,000	当期売上高 990,000
3/31	() ()	3/31 () ()	〃 () ()
		()	()
		<u> </u>	<u> </u>
損益			
3/31	() ()	3/31 () ()	() ()

HINT

本問は次の手順で解く。

1. 繰越商品勘定と仕入勘定につき決算整理仕訳をイメージし、勘定への記入を行う。
2. 次に仕入勘定、売上勘定から損益勘定への決算振替仕訳をイメージし、勘定への記入を行う。

91 損益計算書と貸借対照表の作成

テキスト▶P.118 解答・解説▶P.174

解答用紙

損 益 計 算 書			
大原商事		×年()月()日から×年()月()日	
		(単位:円)	
費 用 の 部	金 額	収 益 の 部	金 額
売 上 原 価	()	売 上 高	()
給 料	()	受 取 地 代	()
支 払 家 賃	()	受 取 利 息	()
保 険 料	()		
()	()		
()	()		
()	()		
	()		()

貸 借 対 照 表			
大原商事		×年()月()日現在	
		(単位:円)	
資 産	金 額	負債および純資産	金 額
現 金	()	買 掛 金	()
売 掛 金	()		()
()	()		()
商 品	()	資 本 金	()
()	()		()
()	()		
備 品	()		
()	()		
土 地	()		
	()		()

92 損益計算書と貸借対照表の作成

テキスト▶P.119 解答・解説▶P.175

損 益 計 算 書			
札幌商事	×年()月()日から×年()月()日まで		(単位:円)
費用	金額	収益	金額
売上原価	()	売上高	()
給料	()	()	()
貸倒引当金繰入	()		
減価償却費	()		
()	()		
支払保険料	()		
支払利息	()		
法人税、住民税及び事業税	()		
()	()		
	()		()

貸 借 対 照 表			
札幌商事	×年()月()日現在		(単位:円)
資産	金額	負債および純資産	金額
現金	()	買掛金	()
当座預金	()	借入金	()
売掛金	()	()利息	()
()	()	未払法人税等	()
商品	()	資本金	1,500,000
()保険料	()	()	()
建物	()		
()	()		
土地	()		
	()		()

HINT

本問は次の手順で解く。

1. 決算整理前残高試算表上の金額不明分(繰越商品、給料)について推算する。
 - (1) 繰越商品については、決算整理前の残高試算表なので期首商品棚卸高となる。
 - (2) 給料については、借方合計額から差し引きにより計算される。
2. (B) 決算仕訳を行い、損益計算書および貸借対照表の作成を行う。

93 損益計算書と貸借対照表の作成

テキスト▶P.120 解答・解説▶P.177

解答用紙

損 益 計 算 書			
福岡株式会社		×年4月1日から×年3月31日まで	
(単位:円)			
費 用	金 額	収 益	金 額
()	()	売 上 高	()
販 売 費	()	受 取 手 数 料	()
給 料	()	()	()
支 払 保 険 料	()	/	
支 払 家 賃	()		
減 価 償 却 費	()		
貸 倒 引 当 金 繰 入	()		
()	()		
法人税、住民税及び事業税	()		
()	()		
()	()		
()	()		
()	()		

貸 借 対 照 表			
福岡株式会社		×年3月31日現在	
(単位:円)			
資 産	金 額	負 債・純 資 産	金 額
現 金 預 金	()	支 払 手 形	()
受 取 手 形	()	買 掛 金	()
()	()	借 入 金	()
売 掛 金	()	() 手 数 料	()
()	()	() 利 息	()
商 品	()	未 払 法 人 税 等	()
() 保 険 料	()	資 本 金	()
備 品	()	()	()
()	()		
()	()		()

HINT

- 本問は次の手順で解く。
1. 決算整理後残高試算表上の金額不明分（繰越商品、貸倒引当金繰入、前払保険料、売上）について推算する。
 - (1) 繰越商品については、決算整理後の残高試算表なので期末商品棚卸高となる。
 - (2) 貸倒引当金繰入については、貸倒引当金の決算整理後残高試算表数値と決算整理前残高試算表数値の差額により計算される。
 - (3) 前払保険料については、借方合計額から差し引きにより計算される。
 - (4) 売上については、貸方合計額から差し引きにより計算される。
 2. 決算整理後残高試算表の諸数値が判明したら、損益計算書及び貸借対照表の作成を行う。

94 損益計算書と貸借対照表の作成

テキスト▶P.121 解答・解説▶P.179

損 益 計 算 書			
大原株式会社		×6年4月1日から×7年3月31日まで	
(単位:円)			
費 用	金 額	収 益	金 額
()	()	売 上 高	()
給 料	()	受 取 手 数 料	()
旅 費 交 通 費	()	受 取 地 代	()
支 払 保 険 料	()		
通 信 費	()		
()	()		
減 価 償 却 費	()		
法人税、住民税及び事業税	()		
()	()		
	()		()

貸 借 対 照 表			
大原株式会社		×7年3月31日現在	
(単位:円)			
資 産	金 額	負 債・純 資 産	金 額
現 金	()	支 払 手 形	()
当 座 預 金	()	買 掛 金	()
受 取 手 形	()	未 払 法 人 税 等	()
()	() ()	資 本 金	()
売 掛 金	()	利 益 準 備 金	()
()	() ()	繰 越 利 益 剰 余 金	()
商 品	()		
() 費 用	()		
() 収 益	()		
建 物	()		
()	() ()		
土 地	()		
	()		()